

月刊

地域保健

8
2013

●特集①

減酒支援—AUDITとブリーフインターベンション

●特集②

違法ドラッグの危険性を知る

●フロントランナー 伊藤昌子さん《豊川市 健康福祉部 保健センター 課長補佐》

●ピープル 竹中ナミさん《社会福祉法人プロップ・ステーション理事長》



FRONT
RUNNER
フロントランナー

愛知県
豊川市

伊藤昌子
さん

● 豊川市健康福祉部保健センター | 課長補佐

指導するのではなく、病の意味やその人の力を見つけたい

保健師とは、
種まく人

愛知県の南東部にある豊川市は、人口18万人の都市。名古屋から電車で1時間ほど離れたところに位置し、北は本宮山、南部は三河湾に面している。山、川、海に恵まれた平野で、自然が豊かで気候も穏やかだ。

一方、東海道の宿場町があり、交通の要衝として栄えていたため、経済活動も盛んで、工業、農業、商業などがそれぞれほどよく発展し、経済活動のバランスも良い。日本三大稲荷のひとつ、商売繁盛の神を祀る豊川稲荷は、



豊川市のシンボルで、初詣は大変にぎわいをみせる。今年の11月には、ご当地グルメの祭典「B-1グランプリ」も豊川で開催されるため、全国から注目を集めそうだ。

自然豊かな豊川で 好奇心旺盛に育った

今回、お話をうかがった伊藤昌子さんは、豊川市に保健師として就職して34年。現在は豊川市健康福祉部保健センターの課長補佐を務めている。豊川で生まれ育ち、豊川の暮らしをこよなく愛するひとりだ。

「豊川の東側で生まれ育って、今は西側に暮らしています。気候は温暖で災害もなく、地域の人たちのつながりもある豊川は、のんびりしていて暮らしやすい土地です。ここで生まれ育って働いている、という人が多いと思いますよ。私も、豊川を出たのは短大時代



豊川稲荷神社の周りは昔ながらの商店が立ち並び、観光スポットとしても有名

に名古屋で寮生活をした3年間だけでした」

伊藤さんは、小さいころから好奇心旺盛で、興味があることにどんどん突き進む子どもだった。家族で出かける時、つい何かに興味を引かれ、気づくと迷子になってしまうことがたびたびあったという。

減酒支援

AUDITとブリーフインターベンション

先進諸国においては飲酒量の増える各段階で介入し、減酒へと導くアルコール対策が主流となっている。わが国においても、特定健診・特定保健指導の「標準的な健診・保健指導プログラム改訂版」でアルコールのリスクに着目した保健指導の強化が盛り込まれ、AUDIT (Alcohol Use Disorders Identification Test、オーディット) などの減酒支援ツールの活用が推奨されている。今月の特集①では、具体的な減酒支援の方法や活用事例について紹介する。

P18 AUDITとブリーフインターベンションの基礎知識

◎伊藤 満、樋口 進 (独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター)

P24 Field Report ①

東大阪版 AUDIT 質問表とフィードバックカード

—指導要否の判定と減酒支援に有用

◎取材 高田英弦 (医療記者)

P30 Field Report ②

四日市アルコールと健康を考えるネットワーク

—地域が一丸となって患者支援・啓発推進

◎取材 高田英弦 (医療記者)



違法ドラッグの 危険性を知る



違法ドラッグ乱用による健康被害が社会問題となっている。違法ドラッグは、脱法ハーブ、脱法ドラッグ、合成ハーブなどとさまざまな呼び名で報道されており、統一されていない。実はこれらはすべて同じものであり、すべて乱用目的で製造された「合成薬物を混ぜ込んだ製品」であり、「規制を逃れた薬物」である。国では違法ドラッグ（いわゆる脱法ドラッグ）、「東京都では「違法（脱法）ドラッグ」が公式の名称となっている。違法ドラッグの中には麻薬や覚せい剤よりも強力な毒性をもつものもあり、急性中毒により命を落とす危険性もある。

P36 規制と啓発の強化で違法ドラッグ撲滅へ

◎刈岡 学（厚生労働省 医薬食品局）

P44 脱法ハーブの健康被害—主に合成カンナビノイドについて

◎船田正彦（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所）

P50 東京都の違法ドラッグ対策

◎大貫奈穂美（東京都福祉保健局）



久留米市の 新しい地域保健を展開中

「ありがとう」の言葉に力をもらっています

かむまる ともみ

金丸智美さん

- 久留米市保健所地域保健課
南部保健センター



文=太田美由紀 (ライター) 写真=C.Kent

日本三大餅（がすり）のひとつ、久留米餅のワンピースで出迎えてくれたのは、久留米市役所保健所地域保健課、南部保健センターの金丸智美さん。4月にできたばかりのピカピカの南部保健センターで、保健師として4年目の金丸さんにお話をうかがいました。

優しい看護師に憧れて 看護学専攻へ進学

三姉妹の次女として、のびのびと育った金丸さんは、小さなころから病気が知らず、外で遊んではかりの男勝りな女の子でした。いつも真っ黒に日焼けしていたそうです。

「もともと、風邪もひかず熱も出さなかったのに、高校生のときにお腹が痛くてひとりで自転車で病院に行ったら虫垂炎で、当日そのまま入院して手術することになったんです。病院にはあまり行ったことがなかったし、手術後



▲小学校から続けているなぎなたで、国体にも出場

に夜中に目が覚めたら家族も帰ってしまっ、とても心細かった。そのとき看護師さんが優しくしてくれたのがうれしくて、看護師さんになりたいと思うようになりました」

金丸さんは福岡県福岡市在住で、ほとんどを博多で過ごしましたが、夏休みやお正月に帰省する両親の実家は鹿児島県のイチゴ農家。牛や鶏もいる祖父の家で動物や生き物が大好きになり、獣医にも憧れたことがあるそうです。

「家族にも、親せきに医療系に進んだ

人もいないんですけど、母に、だれか一人ぐらいいてもいいねと言われて。憧れていた看護師を目指して、大学に進学しました」

九州大学医学部保健学科の看護学専攻で看護の勉強をするかたわら、小学校から続けていたなぎなたでは大学でも活躍。なんと、国体にも出場したほどの腕前だとか。取材時のやわらかい雰囲気からは想像できない、りりしい顔つきの写真を見せてくれました。

自分の力が及ばないと 感じ、悩んだ4カ月

入学時は保健師という職種も知らない状態でしたが、看護学専攻では、保健師の実習も受けることになりました。

「実習担当の前野有佳里先生（九州大学講師）がとっても情熱を持った方

で、保健師の素晴らしさをたくさん教えていただきましたし、実習も本当に楽しいものばかりでした。実習を通して、専門的な分野を担当する看護師よりも、トータルに病氣予防のお手伝いをしたり、子どもからお年寄りまでたくさんの方々との出会いがある保健師に魅力を感じました」

卒業後は経験を広げるために看護師として病院勤務を選びましたが、3年は続けようと思っていたものの、悩んだ末に4カ月で辞めることに。

「白血病など血液のがんをわずらった患者さんが多い血液内科に配属されました。治療が難しいケースが多く、抗がん剤治療や痛みをとるくらいしかできない現実を突きつけられました。病氣の予防のお手伝いをしたいという気持ちが強かったので、私の力ではどうすることもできない状況で無力感が高

まり、やはり保健師として働きたいと辞めてしまいました。いまでも、もう少し続ければよかったかもしれないと思うこともあります。あの日辞めたからこそ今があると思います、目の前のことを精いっぱい頑張っています」

辞めてすぐに大学に報告に行くと、お世話になった先生が相談にのつてくれ、福岡市の臨時職員を紹介してくれました。

「産休の代替で臨時職員として入った福岡市の南区保健福祉センターでは、1校区を担当させていた。保健師としていろいろなることを教えていただいた。看護師のときには自分の力が及ばな

地区に出たいという 気持ちが募る日々

いと肩を落としていたのですが、保健師になって、自分にもできることが増えたような気がします。人の役に立つことができると思われようになりました」

そして、臨時職員として福岡市で働いている間に久留米市の職員採用試験を受け、2010（平成22）年から入職となりました。そのころ、久留米



▲久留米餅のワンピースに優しい笑顔がよく映える